

スモン患者への灸施術による効果

新野 正明 (国立病院機構北海道医療センター)
 築島 恵理 (北海道保健福祉部健康安全局地域保健課)
 藤本 定義 (中央鍼マッサージ治療室)
 藤本 純子 (中央鍼マッサージ治療室)
 稲垣 恵子 (公益財団法人北海道スモン基金)

研究要旨

スモン患者に多い異常感覚では部位によっては鍼の刺激が強すぎてしまい、それが苦痛となりその部位に施術を出来ない場合がある。今回そのような患者の鍼施術が出来ない部位に台座灸を用いる事で施術を可能にする事ができた。さらに鍼と同じような効果が出るか検証した。

12回の施術で - 1.2cm の効果があった為鍼施術と同様の効果を出せた。また、灸は温かさがあるので冷えの症状が強いスモン患者に適した施術であると考えられる。

A. 研究目的

スモン患者の主な後遺症状として、表在や深部の異常感覚・筋力低下・刺激による痛みの増強などが挙げられる。特に下肢においてこれらの症状が強く見受けられる患者が多い。この事から鍼やマッサージの施術を下肢以外の部位では心地良く感じながら施術を受けられる患者でも、下肢になると刺激が辛く感じてしまうケースがある。空調の風や消毒の冷たささえも辛いと訴える程である。この様なスモン患者へ、刺激の弱い灸施術によって下肢の浮腫や冷感などの症状が緩和されるか検証する。

B. 研究方法

症例 60代女性

頸・肩・腕・臀部の痛み。H30年5月頃より左肩関節の石灰化による痛み。臀部は特に腸骨稜と坐骨結節の硬結部位に痛みが出やすい。下腿外側の痛み、冷え。

H29年9月に腰椎すべり症の手術をした為患者の希望により腰部のマッサージは軽めに施し主に弱刺激での鍼治療を行う。

H30年7月より上記の症状に加えて 夜中に土踏ま

スモン後遺		身体的合併症
歩行:	通常予(歩いて歩行)	白内障
下肢筋力低下:	中等度	骨質減少
下肢感覚:	中等度	慢性すべり症
下肢筋萎縮:	中等度	シェーレンホルツ病
上肢運動障害:	あり	
異常感覚障害:	軽度 膝以下 程度 肘腕・やわらかく 痛感・中等度以下	
下肢運動障害:	中等度	
異常知覚:	程度 中等度 内容 じんじん・痛み	
上肢知覚障害:	実により	
上肢深部知覚:	正常	
膝蓋腱反射:	異常亢進	
アキレス腱反射:	亢進	
腱反射:	程度 ひとつで弱んでいる	

図1 症例 スモン現状調査個人票 (抜粋) 60代女性

ずがつる 足首前面が膨れ上がっている様に感じる
 足首を動かすと何かが貼り付いているかの様に動かしにくい 右足下腿内側 (三陰交穴付近) の浮腫などの症状が出現した為、同月より下腿への鍼治療と共に灸施術の併用を開始する。尚、スモン患者は知覚異常がある為やけど防止に隔物灸 (せんねん灸) を用いるものとする。

全身マッサージ後、頸・肩・肩甲間部へローラー鍼。

天柱・風池・天容・肩井・肩外兪・天宗・身柱、肩甲間部圧痛点

肩髃・肩髃・臑会・曲池・手三里・大陵・陽池・合



図2 症例の鍼主要経穴

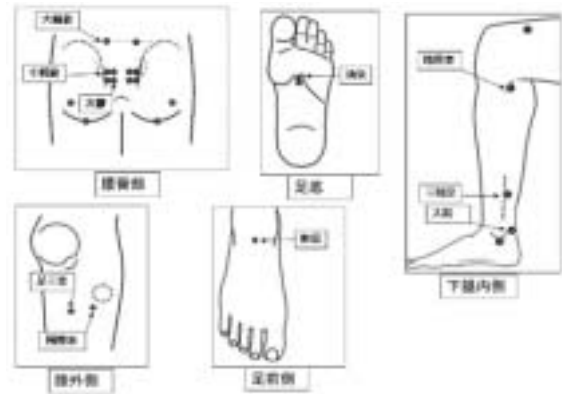


図3 症例の灸主要経穴

谷へ鍼弱刺激による単刺。

坐骨結節周囲圧痛、硬結部へ置鍼。

下腿外側、足首硬結部3~4箇所位置鍼又は、単刺。

灸施術を陰陵泉・陽陵泉・足三里・三陰交へ各1壮。

翌週、三陰交周囲の浮腫が軽減した為同様の施術を週1回3週続け ~ の症状も改善された。その後、灸施術を2週間程休んだ所3週目で三陰交付近の浮腫が出現した。

H31年に入り下肢への刺激が以前よりも敏感になり、鍼刺激が辛く感じるようになってきた。夏になり浮腫が出てきた為R1年7月17日より下腿へ灸のみで施術を開始した。

下腿部の痛み浮腫に対し、陰陵泉・陽陵泉・足三里・三陰交に加え、解谿・太谿・湧泉へ灸各1壮。腰・臀部・腸骨稜の痛み、足の冷えに対し、大腸俞・小腸俞・次髎へ各1壮。

週1回の施術を10月23日までの間に12回行い治療前の計測では7月17日右三陰交の浮腫周囲20.5cmであったのが、10月23日には19.3cmとなり、-1.2cmとなった。

C. 研究結果

H30年7月では鍼と灸を併用出来たので1回の施術で1週間の間、土踏まずがつかなくなり、浮腫も軽減した。R1年7月になり下肢へ鍼を併用出来ない状態となったが、灸のみの施術であっても回数を重ねる事により浮腫が-1.2cmとなり効果が認められた。11月に入ってもその状態を維持できている。又、腰・臀部への灸は、大腿部、ふくらはぎまで温かさが流れて

くる様に感じて心地良いとの事である。足底の冷えについても、軽減されている。昨年までは、足が冷えると側頭部がキーンとなって響いていたが、今年は1度もその現象がおきていないとの事である。

E. 結論

今回の症例では下腿の施術において鍼と灸を併用した方が早く効果が現れた。しかしながら、灸のみの施術であっても回数を重ねる事により徐々に効果が現れる事も分かった。

更に、灸による温熱作用はスモン患者への冷え症状に対し施術中に心地よく効果を実感してもらう事が出来た。本症例の患者は、若年発症であり長年の車椅子生活や自動運動が困難な事から筋力低下は深刻であり、下肢への影響は顕著である。その為今後も継続治療は不可欠である。

又、スモン患者のコンディションに合わせてマッサージ・鍼・灸の使い分けや組み合わせた施術を行う事により患者への治療の際の心身の負担も軽減する事が大切であると考えられる。